



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	「琉球大学の大学院の教育改善に関する学生調査2020」 報告：高度専門教育プログラム等の学修成果
Author(s)	西本, 裕輝
Citation	琉球大学大学教育センター報 = University Education Center Bulletin(23): 3-17
Issue Date	2021-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48493
Rights	

「琉球大学の大学院の教育改善に関する学生調査2020」報告 —高度専門教育プログラム等の学修成果—

西本 裕輝（グローバル教育支援機大学教育支援部門）

要 旨

本稿の目的は、2020年4月に実施した大学院生調査をとおして、大学院教育の成果、特に高度専門教育プログラムの成果を把握することである。調査項目としては、「満足度」「スキル・能力の修得度」等であったが、すべての項目において、8割を超える肯定的な回答が得られた。よって結果から、高度専門教育プログラムに限らずすべてのプログラムにおいて成果があがっていると判断できた。

キーワード

高度専門教育プログラム、学生調査、大学院教育、大学院生

はじめに

琉球大学における第3期中期目標・中期計画には、「21世紀型市民として、幅広い知識や高度な専門知識、応用能力、課題解決能力等の獲得を通して普遍的価値を身につけ、地域社会及び国際社会で活躍し、その発展に貢献できる人材を育成する」並びに「学生に広く知識を修得させ、基礎的教養と専門性を連結した応用能力を身につけさせる総合的な実施体制に基づいて、多様な教育資源を活用した大学教育を展開する」とある。大学院教育プログラム委員会においては、上記計画に基づき、2016年度より「実践的な高度専門教育プログラム」の拡充を図ってきた。そして導入後においては、高度専門教育プログラムの学修成果の状況について、学生調査等による成果の検証を行う必要があった。

ここでは、大学院生を対象とした調査の分析を通して、高度専門教育プログラムの成果について検証を行う。

1 調査の概要

1.1 調査の目的

調査をとおして、大学院生、特に高度専門教育プログラムに所属する学生の学修成果を把握することを目的とする。

1.2 調査対象

本学の修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程に所属する大学院生2年次

1.3 調査実施期間

2020年4月2日（木）～4月24日（金）

1.4 調査方法

琉球大学教務情報システムを利用したWEB調査

1.5 回答状況

表1のとおり

表1 回答状況

研究科	在籍数 (配布数)	休学者数	回答数	回答率 (休学者含む)
人文社会科学研究科(博士前期課程)	37	9	26	70.3%
観光科学研究科(修士課程)	2	1	1	50.0%
教育学研究科(修士課程)	25	2	17	68.0%
医学研究科(修士課程)	14	1	13	92.9%
保健学研究科(博士前期課程)	12	2	9	75.0%
理工学研究科(博士前期課程)	157	7	146	93.0%
農学研究科(修士課程)	30	3	25	83.3%
教育学研究科(専門職学位課程)	20	0	20	100.0%
法務研究科(専門職学位課程)	15	1	14	93.3%
全体	312	24	271	86.9%

- ・在籍数：2020年5月現在（外国人留学生及び休学者を含む）
- ・問1にて、明らかに異なる所属であるが、高度専門教育プログラムを専攻しているか判断がつかない学生の回答については、欠損値とみなし「回答数」から除外している。
- ・「法務研究科2年次コース」2020年度入学者は、1年次は在学したものと見なされ（大学院学則第45条3項）、2年次から履修開始しているため、本調査では対象外とみなし「在籍数（配布数）」から除外している。

2 結果

2.1 本学の大学院教育

本調査の設問項目を表2に示す。問2～問8の回答は4件法（「とてもあてはまる」、「ある程度あてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」）を用いた。また、各設問をわかりやすく示すために、「問2 あなたが所属する専攻のカリキュラムに満足している」を「問2 満足度」といったような端的な設問項目名を設けた。

なお、本調査の質問票を別紙資料1に示す。

表2 各設問項目

設問項目名	設問文
問1 「高度教育専門プログラムの専攻」	あなたが専攻するプログラムで、あなたは以下の「高度専門教育プログラム」を専攻していますか。（以下回答項目） <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度専門教育プログラムは専攻していない 2. 政策評価実践コース（人文社会科学研究科） 3. 公衆衛生改善のための保健医療人材育成プログラム（保健学研究科） 4. 電力・エネルギー系卓越大学院構想（理工学研究科） 5. 国際農学プログラム（農学研究科） 6. 高度教職実践教育プログラム（教育学研究科） 7. 法務教育プログラム（法務研究科）
問2 「満足度」	あなたが所属する専攻のカリキュラムに満足している
問3 「社会ニーズ等への対応」	あなたが所属する専攻のカリキュラムは、社会からのニーズおよび専門分野の学術動向に対応していると思う
問4 「内容・レベルの適切さ」	あなたが所属する研究科、専攻の修了要件として履修する科目の内容及びレベルは、取得する学位に対して適切であると思う
問5 「達成目標等の理解度」	あなたが履修している各授業の達成目標及び成績評価基準（学位論文含む）を理解している
問6 「授業目標の達成度」	あなたが履修している各授業（学位論文のための研究も含む）の達成目標を達成している
問7 「スキル・能力の修得度」	大学院の高度な教育研究をとおしてこそ身に付くことが期待される、社会を先導する力、様々な場面で学んだスキルを効果的に応用・展開することができる能力を身に付けたと思う
問8 「研究倫理の理解度」	あなたが所属する専攻のカリキュラムをとおして「研究倫理」（高度教職実践教育プログラム、法務教育プログラムにおいては「職業倫理」）が理解できた
問9 自由記述	その他、ご意見などがありましたら回答ください。（自由記述、2000字以内）

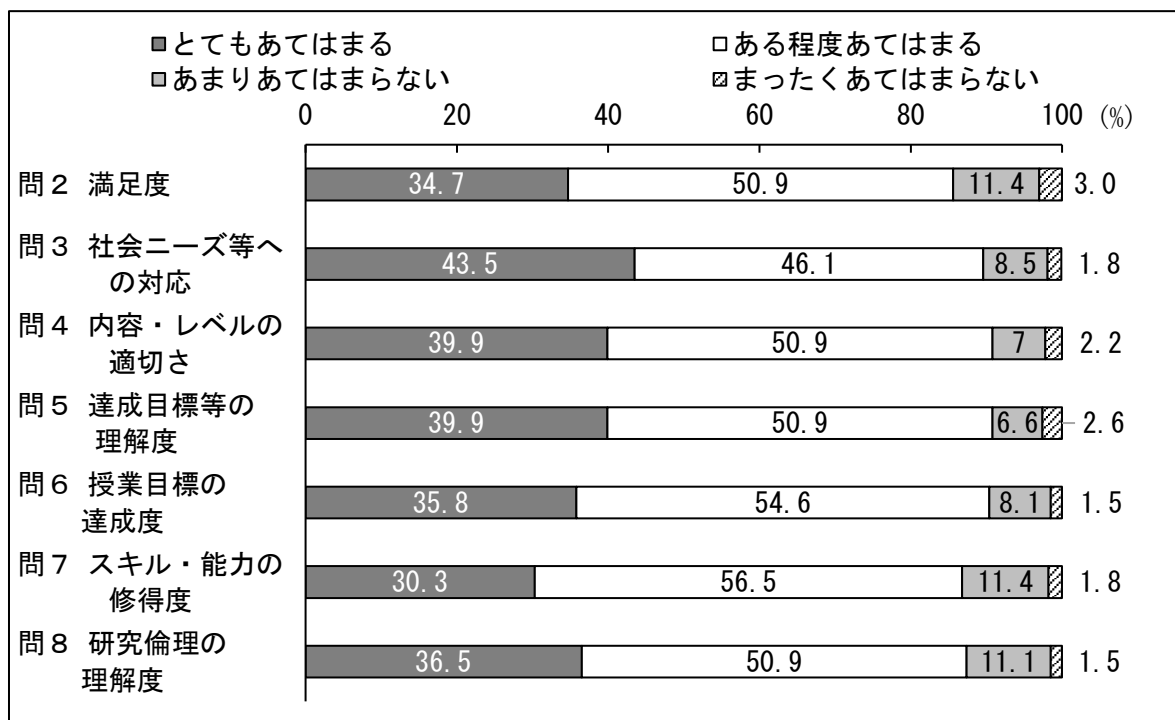


図1 設問2～8における回答の割合

問2～8について、回答の割合を図1に示す。各設問に対し「とてもあてはまる」及び「ある程度あてはまる」の回答の割合は回答数全体の8割を超えている。このことから概ねポジティブな回答が多いことがわかる。

2.2 高度専門教育プログラムの学修成果の状況

回答結果から、明らかに「高度専門教育プログラム」所属の学生が、問1にて異なる選択をしている回答については、修正したうえで集計及び分析を行った。図2から、「高度専門教育プログラム」を専攻している学生は全体の約3割を占めていることがわかる。

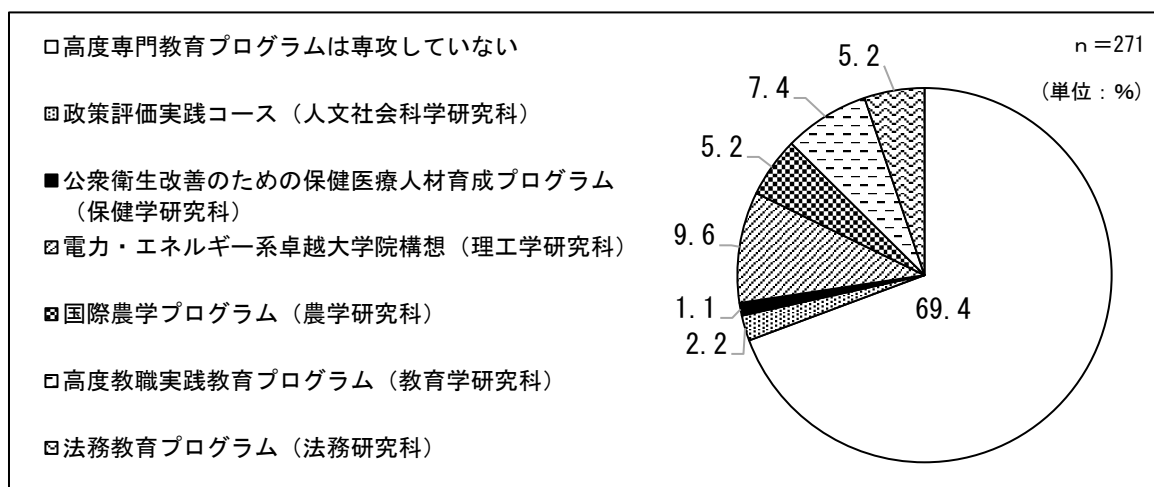


図2 本調査設問01『あなたが専攻するプログラムで、あなたは以下の「高度専門教育プログラム」を専攻していますか。』回答の割合

また、高度専門教育プログラムを「専攻している」学生と「専攻していない」学生の回答の違いをわかりやすく示すため、「とてもあてはまる」「ある程度あてはまる」を「あてはまる」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を「あてはまらない」とまとめ、「専攻している」学生と「専攻していない」学生の回答の割合を比較した。その結果が図3である。

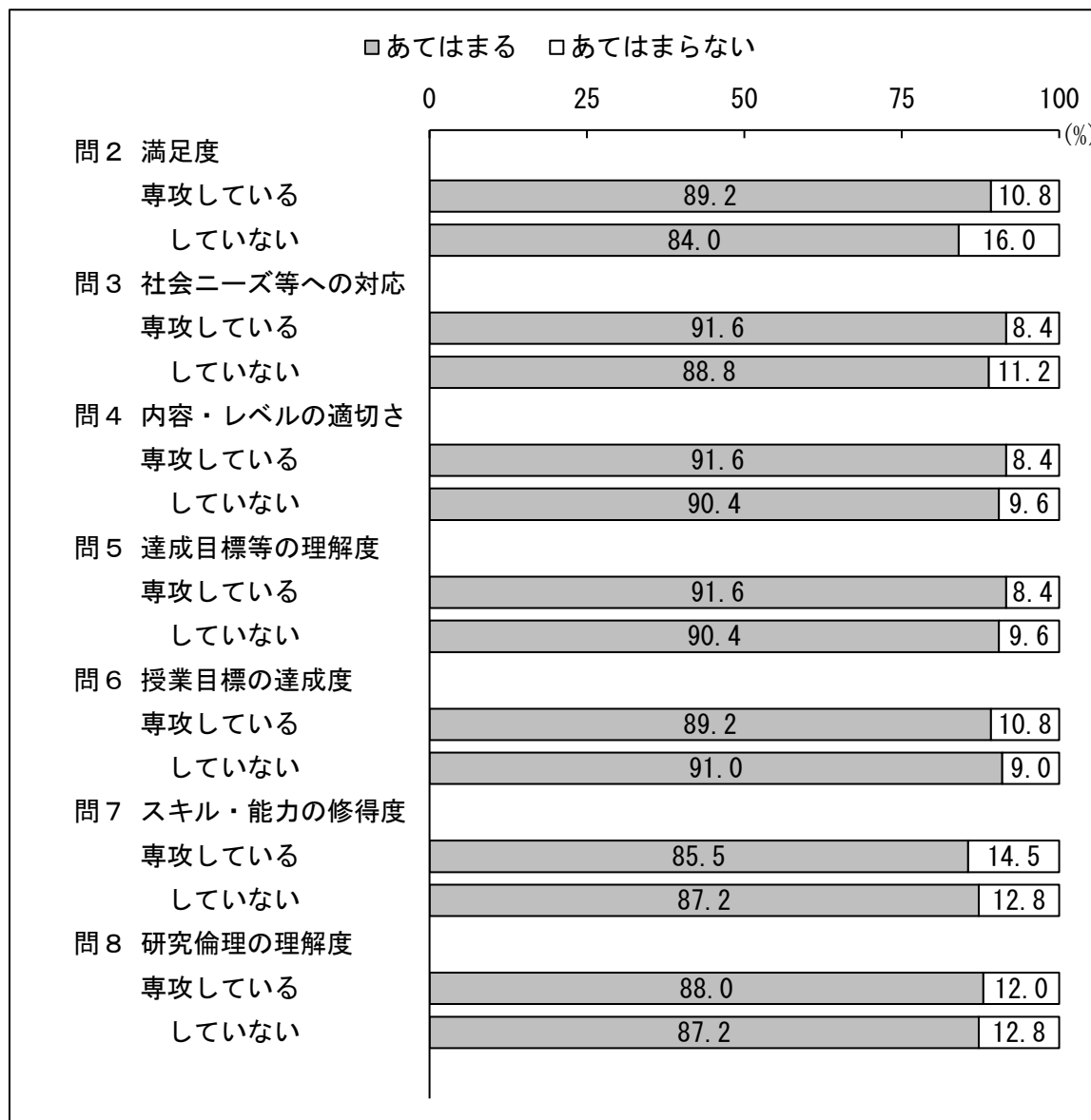


図3 「高度専門教育プログラムを専攻している学生」と「専攻していない学生」の「あてはまる」回答と「あてはまらない」回答の割合

さらに、回答結果を比較するにあたり、問2～問8の回答項目について表3のとおり得点化し、平均値を算出した。分析結果の算出には、IBM SPSS statistics version 22.0を用いた。

表3 問2～問8回答項目の得点化

とてもあてはまる	100点
ある程度あてはまる	100 × 2/3点
あまりあてはまらない	100 × 1/3点
まったくあてはまらない	0点

「高度専門教育プログラムを専攻している学生」と「専攻していない学生」の回答の得点について2水準の平均値の検定を行い、平均値を比較した。その結果を表4及び図4に示す。

表4 「高度専門教育プログラムを専攻している学生」と「専攻していない学生」の各設問の回答得点の平均値の比較

	問2 満足度	問3 社会ニーズ等への対応	問4 内容・レベルの適切さ	問5 達成目標等の理解	問6 授業目標の達成度	問7 スキル・能力の修得度	問8 研究倫理の理解度	
専攻している	72.69	77.91	76.71	74.30	75.10	70.68	74.30	(n=83)
専攻していない	72.34	76.77	75.89	76.77	74.82	72.16	74.11	(n=188)

※有意差なし

(単位：点)

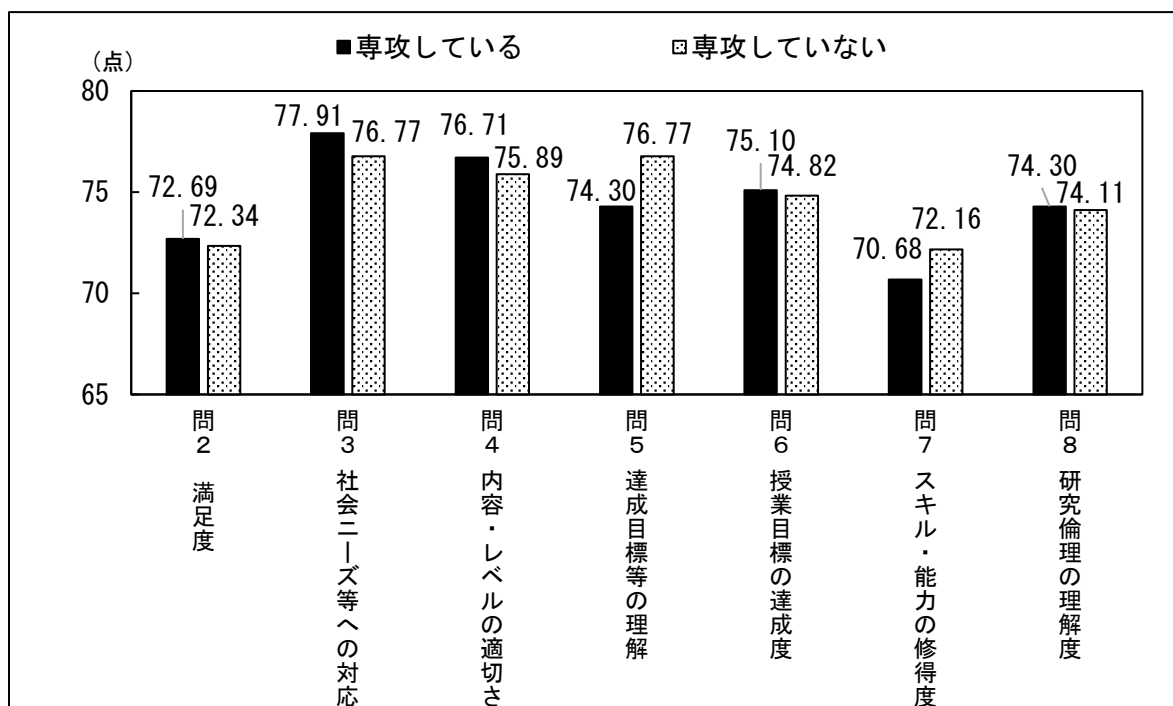


図4 「高度専門教育プログラムを専攻している学生」と「専攻していない学生」の各設問の回答得点平均値の比較

以上の結果からわかるように、高度専門教育プログラムを専攻しているか否かにおいて、大きな差は見られず、統計学的に有意な差も見られなかった。

2.3 各研究科の回答について

同様に、表3の算出方法から得られた回答の得点について、1要因9水準の分散分析を行い、各研究科の平均値を比較した。その結果を表5及び図5に示す。

表5 各研究科の回答得点平均値の比較

各研究科	問2** 満足度	問3 社会ニ ーズ等 への対 応	問4 内容・ レベル の適切 さ	問5* 達成目 標等の 理解度	問6** 授業目 標の達 成度	問7 スキル・ 能力の修 得度	問8* 研究倫 理の理 解度	
人文社会科学研究科 (博士前期課程)	73.1	76.9	78.2	83.3	78.2	73.1	65.4	(n=26)
観光科学研究科 (修士課程)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	(n=1)
教育学研究科 (修士課程)	82.4	84.3	82.4	74.5	74.5	76.5	76.5	(n=17)
医学研究科 (修士課程)	64.1	74.4	76.9	71.8	71.8	66.7	79.5	(n=13)
保健学研究科 (博士前期課程)	44.4	59.3	66.7	63.0	59.3	59.3	66.7	(n=9)
理工学研究科 (博士前期課程)	74.2	77.6	76.5	77.6	77.6	72.8	76.3	(n=146)
農学研究科 (修士課程)	77.3	84.0	80.0	81.3	80.0	77.3	82.7	(n=25)
教育学研究科 (専門職学位課程)	66.7	75.0	70.0	68.3	63.3	65.0	63.3	(n=20)
法務研究科 (専門職学位課程)	64.3	66.7	66.7	59.5	59.5	61.9	64.3	(n=14)
各数値の平均値	71.83	77.57	77.48	75.49	73.81	72.50	74.95	(n=271)

** $p < .01$ * $p < .05$

(単位：点)

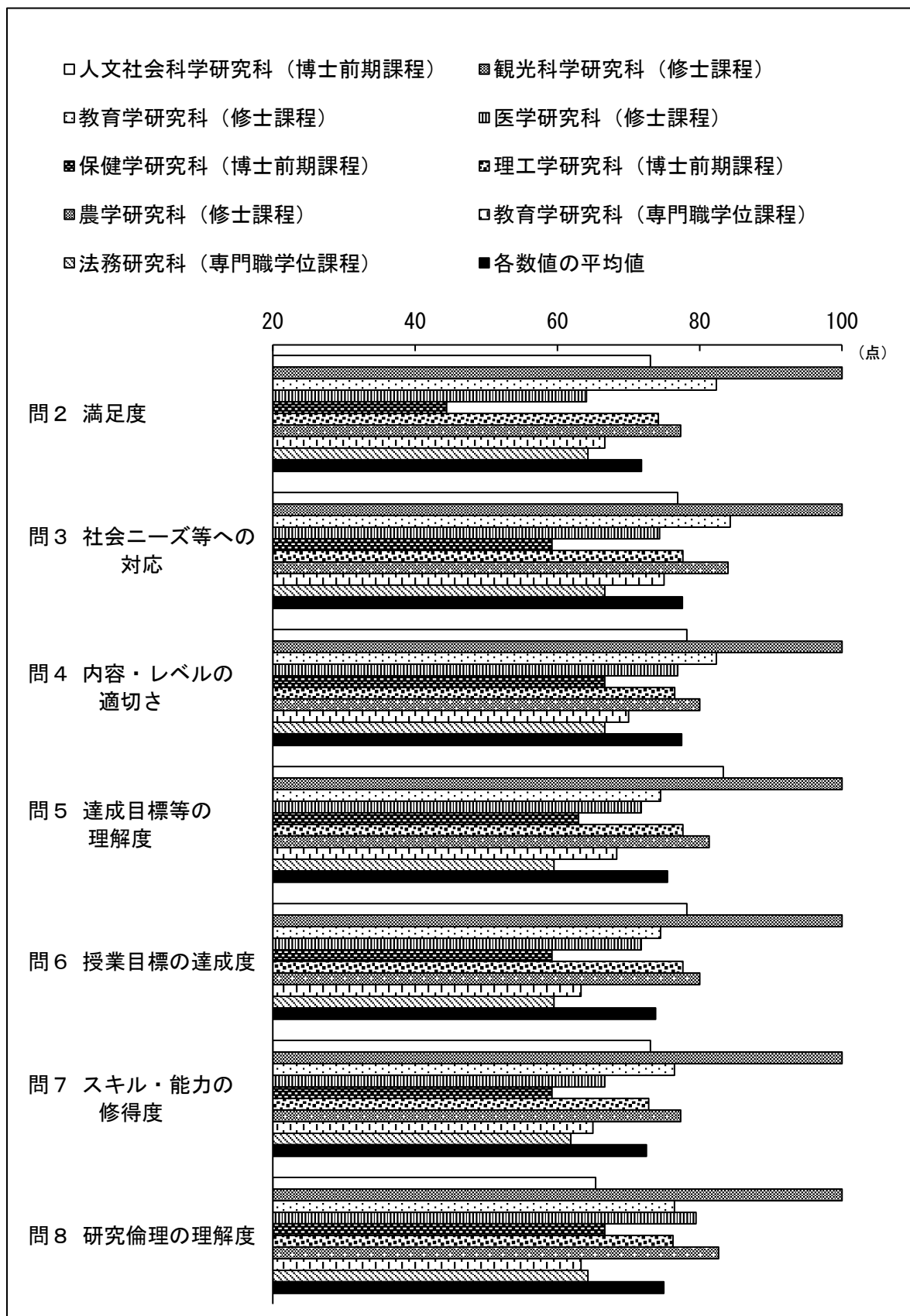


図5 各研究科の回答得点平均値の比較

おわりに

(1) 大学院教育の満足度等

すべての項目で「とてもあてはまる」「ある程度あてはまる」と回答した者の割合が8割を超えていることから、多くの大学院生が、おおむね本学の教育に満足し、高く評価していると言える。

(2) 高度専門教育プログラムの学修成果の状況について

また、高度専門教育プログラムを専攻している学生と専攻していない学生の差は特に見られなかったが、これは必ずしも高度専門教育プログラムが成果を出していないということを意味しているわけではない。全体の8割が肯定的な回答をしている以上、高いレベルでの比較となり、もともと大きな差が生じる状態にはないと思われる。つまり正確に言えば、本学の大学院教育は全体的に成果をあげており、高度専門教育プログラムもその他のプログラムも両方とも高く評価されているといったところであろう。よって比較自体、あまり意味のない分析であったとも言える。

(3) 各研究科の状況について

比較自体、あまり意味のないものであるという状況は、各研究科間の比較においても同様である。一部の結果に有意な差が見られたものの、全ての設問において7割を超える値となっており、やはり高いレベルでの比較ということになる。

また、その差を認めたとしても、今回のデータはコロナ禍という特殊な状況での調査であるということにも留意する必要がある。例えば、本来年度末に行うはずだった教育活動が、コロナのために実施できなかったという事例もあった。そうした活動の停滞は、学生の満足度等に大きな影響を与えたと思われる。その影響の大きさは、プログラムによっても異なつたであろう。

こうしたことから、今回の調査だけで成果を確定することなく、継続調査によって実態を把握する必要があるだろう。

(4) 今後の課題等

本調査では、教務情報システムを活用し、履修登録時に必須回答とすることにより、高い回答率を得ることができた。しかし、各研究科において、回答率が必ずしも100%になっているわけではない。学生が休学している、または履修登録時に教務情報システムを利用しない研究科（専攻）がある等の理由が考えられる。

また、問9の自由記述項目にて、回答数271中23（約8.5%）の回答を得ることができた。中には、社会から求められるニーズと実際の教育プログラムの乖離についての指摘等、本学が提供する教育について改善を求める声が見受けられた。具体的な内容については、別紙資料3に示す。

学生調査に基づいた学修成果の可視化及び把握については、本学における教育の点検及び改善のため、今後も継続して実施していく必要がある。

琉球大学の大学院の教育改善に関する学生調査 2020年度4月実施

本調査は、大学院における教育の質保証と改善のために行うものです。皆様からいただいた回答を大学の基礎データとして管理・分析し、今後の大学院の教育改善のために役立てます。

回答いただいたデータはすべて統計的に処理され、個人が特定される形で公表されることはありませんので、安心してお答えください。

回答時間の目安は5分程度です。途中で休止し、再開することができますが、必ず最後まで回答してください。

なお、本調査項目に回答いただけない場合は、履修登録画面に進むことができませんので、注意してください。

それではご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

調査対象者：琉球大学大学院生2年次（令和2年度4月時点）

締 切：令和2年4月10日（金）

令和2年4月

グローバル教育支援機構 開発室長 小野寺清光

【問い合わせ先】E-Mail dgurgcc@acs.u-ryukyu.ac.jp

April 2020

The purpose of this survey is to ensure the quality of education provided at the graduate schools of the University of the Ryukyus and to improve our services to students.

We will protect the confidentiality of your answers as important data to the university and use that information solely to improve the graduate schools' quality of education. The data will be statistically processed and analyzed anonymously.

It will take approximately five minutes to answer the questionnaire. You may stop and resume the questionnaire, but please answer to the final question.

Important! This questionnaire is required. Answering the questions allows you to proceed to course registration. Thank you for your cooperation.

Eligibility: Students in the second year of Graduate School (as of April, 2020)

Deadline: Friday, April 10, 2020

We appreciate your cooperation.

Professor Kiyomitsu Onodera

Director, Educational Development Office

Questions? Any inquiry about this survey should be addressed to:

Email: dgurgcc@acs.u-ryukyu.ac.jp

問1 あなたが専攻するプログラムで、あなたは以下の「高度専門教育プログラム」を専攻して

いますか。

(Indicate your course below, if you are enrolled in the following program.)

1. 高度専門教育プログラムは専攻していない
I am not enrolled in an advanced professional education program.
2. 政策評価実践コース (人文社会科学研究科)
Practica in Public Policy Evaluation (Graduate School of Humanities and Social Sciences)
3. 公衆衛生改善のための保健医療人材育成プログラム (保健学研究科)
Okinawa Global Health Science Program (Graduate School of Health Sciences)
4. 電力・エネルギー系卓越大学院構想 (理工学研究科)
Power & Energy Professionals (WISE) Program (Graduate School of Engineering and Sciences)
5. 国際農学プログラム (農学研究科)
International Agriculture Program (Graduate school of Agriculture)
6. 高度教職実践教育プログラム (教育学研究科)
Professional Teacher Education (Graduate School of Education)
7. 法務教育プログラム (法務研究科)
Professional Legal Study (Graduate school of Law)

問2 あなたが所属する専攻のカリキュラムに満足している

I am satisfied with the curriculum of my academic discipline.

1. とてもあてはまる I strongly agree.
2. ある程度あてはまる I somewhat agree.
3. あまりあてはまらない I somewhat disagree.
4. まったくあてはまらない I strongly disagree.

問3 あなたが所属する専攻のカリキュラムは、社会からのニーズおよび専門分野の学術動向に対応していると思う

I feel that my studies at Ryudai reflect the direction of scholarly research in my field, and the curriculum of my academic discipline addresses the needs of society.

問4 あなたが所属する研究科、専攻の修了要件として履修する科目の内容及びレベルは、取得する学位に対して適切であると思う

I feel that the course content and course levels were suitable for the degree I earned.

問5 あなたが履修している各授業の達成目標及び成績評価基準 (学位論文含む) を理解している

I understand course requirements and their grading criteria (including thesis/dissertation).

問6 あなたが履修している各授業（学位論文のための研究も含む）の達成目標を達成している

I have achieved the learning objectives for each class (including research for my dissertation).

問7 大学院の高度な教育研究をとおしてこそ身に付くことが期待される，社会を先導する力，様々な場面で学んだスキルを効果的に応用・展開することができる能力を身に付けたと思う。

I think that I have acquired the ability to lead society and the ability to apply the skills learned in various situations effectively.

問8 あなたが所属する専攻のカリキュラムをとおして「研究倫理」（高度教職実践教育プログラム、法務教育プログラムにおいては「職業倫理」）が理解できた。

I comprehended the “research ethics” or “professional and occupational ethics” offered in the curriculum.

問9 その他、ご意見などがありましたら回答ください。（自由記述、2000字以内）

Your opinion is important to us. Please give us feedback on any of the questions or other points you would like to share. (word limit: 2000 words)

「琉球大学の大学院の教育改善に関する学生調査2020」単純集計表

項目	回答	回答数	割合 (%)
問1 あなたが専攻するプログラムで、あなたは以下の「高度専門教育プログラム」を専攻していますか。	高度専門教育プログラムは専攻していない	188	69.4
	政策評価実践コース（人文社会科学研究科）	6	2.2
	公衆衛生改善のための保健医療人材育成プログラム（保健学研究科）	3	1.1
	電力・エネルギー系卓越大学院構想（理工学研究科）	26	9.6
	国際農学プログラム（農学研究科）	14	5.2
	高度教職実践教育プログラム（教育学研究科）	20	7.4
	法務教育プログラム（法務研究科）	14	5.2
問2 あなたが所属する専攻のカリキュラムに満足している	とてもあてはまる	94	34.7
	ある程度あてはまる	138	50.9
	あまりあてはまらない	31	11.4
	まったくあてはまらない	8	3
問3 あなたが所属する専攻のカリキュラムは、社会からのニーズおよび専門分野の学術動向に対応していると思う	とてもあてはまる	118	43.5
	ある程度あてはまる	125	46.1
	あまりあてはまらない	23	8.5
	まったくあてはまらない	5	1.8
問4 あなたが所属する研究科、専攻の修了要件として履修する科目の内容及びレベルは、取得する学位に対して適切であると思う	とてもあてはまる	108	39.9
	ある程度あてはまる	138	50.9
	あまりあてはまらない	19	7
	まったくあてはまらない	6	2.2
問5 あなたが履修している各授業の達成目標及び成績評価基準（学位論文含む）を理解している	とてもあてはまる	108	39.9
	ある程度あてはまる	138	50.9
	あまりあてはまらない	18	6.6
	まったくあてはまらない	7	2.6
問6 あなたが履修している各授業（学位論文のための研究も含む）の達成目標を達成している	とてもあてはまる	97	35.8
	ある程度あてはまる	148	54.6
	あまりあてはまらない	22	8.1
	まったくあてはまらない	4	1.5
問7 大学院の高度な教育研究をとおしてこそ身に付くことが期待される、社会を先導する力、様々な場面で学んだスキルを効果的に応用・展開することができる能力を身に付けたと思う。	とてもあてはまる	82	30.3
	ある程度あてはまる	153	56.5
	あまりあてはまらない	31	11.4
	まったくあてはまらない	5	1.8
問8 あなたが所属する専攻のカリキュラムをとおして「研究倫理」（高度教職実践教育プログラム、法務教育プログラムにおいては「職業倫理」）が理解できた。	とてもあてはまる	99	36.5
	ある程度あてはまる	138	50.9
	あまりあてはまらない	30	11.1
	まったくあてはまらない	4	1.5

<自由記述回答一覧>※「特になし」との回答や、個人が明らかに特定される回答等を除く

- 博士課程のプログラムがないことが、とても残念です。そのため、今の研究も中途半端になってしまうことが残念です。是非博士課程を設けてほしいです。そうでないと修士の研究の意味も半減してしまうように感じます。(人文社会科学研究科)
- 社会人学生が選べる科目がとても少ないように感じられます。例えば、是非受けた講義があったとしても金2の講義の時間であったりするのでそういった調整や配慮をしてくだされば満足できます。教授の先生方はとても丁寧に教えてくださるのでその点は満足しています。(人文社会科学研究科)
- 文系総合棟の院生研究室の有線 LAN は使用されておらず、衛生的にも不衛生（ホコリ、カビが溜まっている）であり、通路に伸びたままで、引っ掛けて転び誰かが怪我をする恐れもあり、使用予定がないのであれば切断等の措置を取っていただけると嬉しい。(人文社会科学研究科)
- もう少し、地域との関わりや、民間 NPO 団体との外部連携を通じた実践的な地域ぐるみでの言語復興のあり方を構築してほしいです。(人文社会科学研究科)
- もう少しカリキュラムが体系化していただければいいのになと思う。あと、学位審査基準の明確な文章があれば、客観的にわかりやすいのでいいと思う。(保健学研究科)
- シラバスに載っていても、教員が休職中で授業が開講されない、「受講人数が少ないから開講しない」と教員から断られることがある。そもそも院生の定員が 10 名であるにもかかわらず、「受講人数が少ないから開講しない」というのはあり得ないと思います。発表課題が出ていたにも関わらず、その後授業がなく、発表もなされずに終わった授業もありました。大学院生の教育システムがひどすぎると思います。(保健学研究科)
- 講義の質向上が必要だと思います。教授オムニバスの必修科目は、それぞれの趣味の話をする人が多いことがあります。(保健学研究科)
- Classes are short, only 2 or 4 classes on an entire semester are not enough. (理工学研究科)
- 実際に社会から求められているニーズと大学院で学べることは乖離しすぎていて話にならない。他の国立大学大学院と渡り合えるには、同じ方向性でやっても戦いにすらならないので抜本的に方針の転換が必要。(理工学研究科)
- 先生と講義数を増やしてほしいです (理工学研究科)
- In general, we are satisfied with the quality of education and all the curriculums. (理工学研究科)
- My opinion is to continue in improving in teaching methods for elective course, according to course objectives. (理工学研究科)
- As Civil engineer I need more practical than staying in lab with laptop. (理工学研究科)
- 教授陣の横の連携を行った上で、共通理解した内容を学生にはきちんと伝えるべきである。あまりにも指示や考えがバラバラすぎて困る。教育は、現場の子どもと向き合う場。論文のための研究ではないので、論文ありきにならないでほしい。(教育学研究科(専門職学位課程))

実践的な高度専門教育プログラム開設基準

平成29年4月7日
全学大学院教育プログラム委員会

1. 育成する人材像及び能力が学位プログラムのDPに沿っていること。
2. 地域創生や地域に資する人材の育成を目的とすること。
3. 育成する人材像及び能力が具体的であること。
4. 実習、実験等の実践的要素が含まれていること。
5. 報告会、到達指標等、成果が見える手段が整えられていること。
6. 担当教員を含む管理体制が整えられていること。
7. 学外の機関、組織等との連携が含まれていること。
8. 定員が設定されていること。